

Community Social Work NEWS Vol.02

丸亀市でコミュニティソーシャルワーク入門勉強会を開催

令和4年11月12日(土)、丸亀市保健福祉センター(ひまわりセンター)で入門勉強会を開催しました。

幅広い年齢層の参加者21名(施設法人6名、社協職員13名、実習生2名)が4つのグループに分かれ、日頃の職責や担当を超えた意見交換を行いました。

冒頭『日頃感じている業務の課題や、もやもや』ワークでは、それぞれが抱えている課題意識をキーワードとして集約し、これを受けて越智代表から「地域共生社会とコミュニティソーシャルワーク機能について」と題した講義をいただきました。



課題意識の主なキーワード
○おもいやりネットワーク
○民生委員との関わり
○特例貸付 ○防災
○つながる ○ふくしとは

講義では、地域共生社会の実現に向けた取り組みが政策化されたことの意義や現状認識、社協がコミュニティソーシャルワーク機能を発揮して担う支援について、丁寧に解説をいただきました。



越智代表による講義

香川CSW実践研究会代表
琴平町社会福祉協議会会長
日本地域福祉研究所主任研究員

グループワークでは、支援のフェーズごとに移り変わる状況を設定した事例検討を行いました。個人の困りごとにどう支援するか、世帯の生活課題にどのようにアプローチしていくか等支援の視点を共有しました。

ご意見
○他事業所と話すことで困りごとが浮き上がってくる
○「つながり」がなければ支援は難しい



参加者の声 80%の方がスキルや知識の向上に繋がったと評価しました！！

- 色々な人の意見を聞いて、相談者だけでなく家族全体をみて柔軟に対応していくことを再確認した。
- 事例に触れる機会が減ってしまったので、定期的に勉強会に参加していきたいと実感した。
- 施設の方やベテラン職員の意見を聞いて大変勉強になった。
- 課題分析やアセスメントへ、実践事例の方法だけでなく普段の目標設定や段階を追って整理する全体像を確認する視点の大事さに気付くことができた。

スキルや知識の向上につながりましたか？

